

# **JVCケンウッド 決算説明会**

**2012年(平成24年)3月期**

株式会社JVCケンウッド

## 【資料中の略語】

**CE** : カーエレクトロニクス(事業)

**PS** : 業務用システム(事業)

**COM** : コミュニケーションズ(分野)

**BS** : ビジネスソリューション(分野)

**HM** : ホーム&モバイルエレクトロニクス(事業)

**CAM** : カムコーダー(分野)

**HAV** : ホームAV(分野)

**SE** : エンタテインメント(事業)

- 1. 2012年3月期 決算概況**
- 2. 2013年3月期 通期業績予想と  
今後の重点施策**



# 1. 2012年3月期 決算概況

## 2012年3月期決算 サマリー

- \* 円高、震災、タイ洪水、前期構造改革の影響により減収
- \* 震災、タイ洪水影響を、COM、CE OEM／国内市販の伸張、HMの黒字転換がカバーし、営業利益は前期並み
- \* 経常利益は営業外収支の悪化により減益、当期純利益は特別損益の大幅改善により初の通期黒字化、一株当たり5円の期末配当実施予定

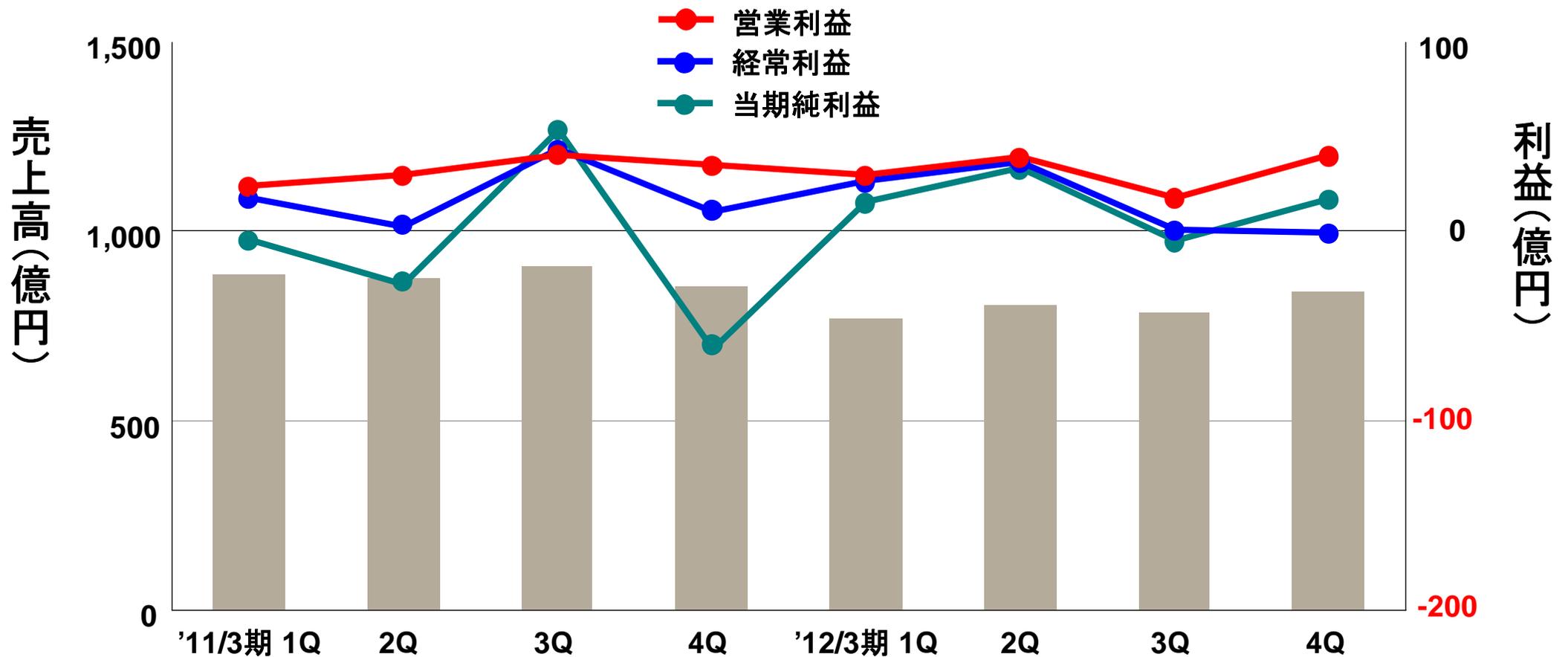
(億円)

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	為替※
通期	'12/3期	3,209	128	64	60	USD:約 79 円 ユーロ:約 109 円
	'11/10/28付 予想	3,330	140	100	65	USD:約 77 円 ユーロ:約 104 円
	'11/3期	3,527	130	76	-40	USD:約 86 円 ユーロ:約 113 円
4Q	'12/3期	843	40	-9	15	USD:約 79 円 ユーロ:約 104 円
	'11/3期	855	35	10	-62	USD:約 82 円 ユーロ:約 113 円

※通期為替レートは、4月～3月のレートを平均した参考値です。'11/10/28付予想の為替レートは、3Q以降の想定レートです。

# 四半期業績推移

- \* 1Q 震災影響の中、営業増益、最終黒字化
- \* 2Q 震災影響から回復し、営業増益、為替差益大
- \* 3Q 洪水影響により減収減益
- \* 4Q 洪水影響が残る中、売上回復、営業増益、為替差損大

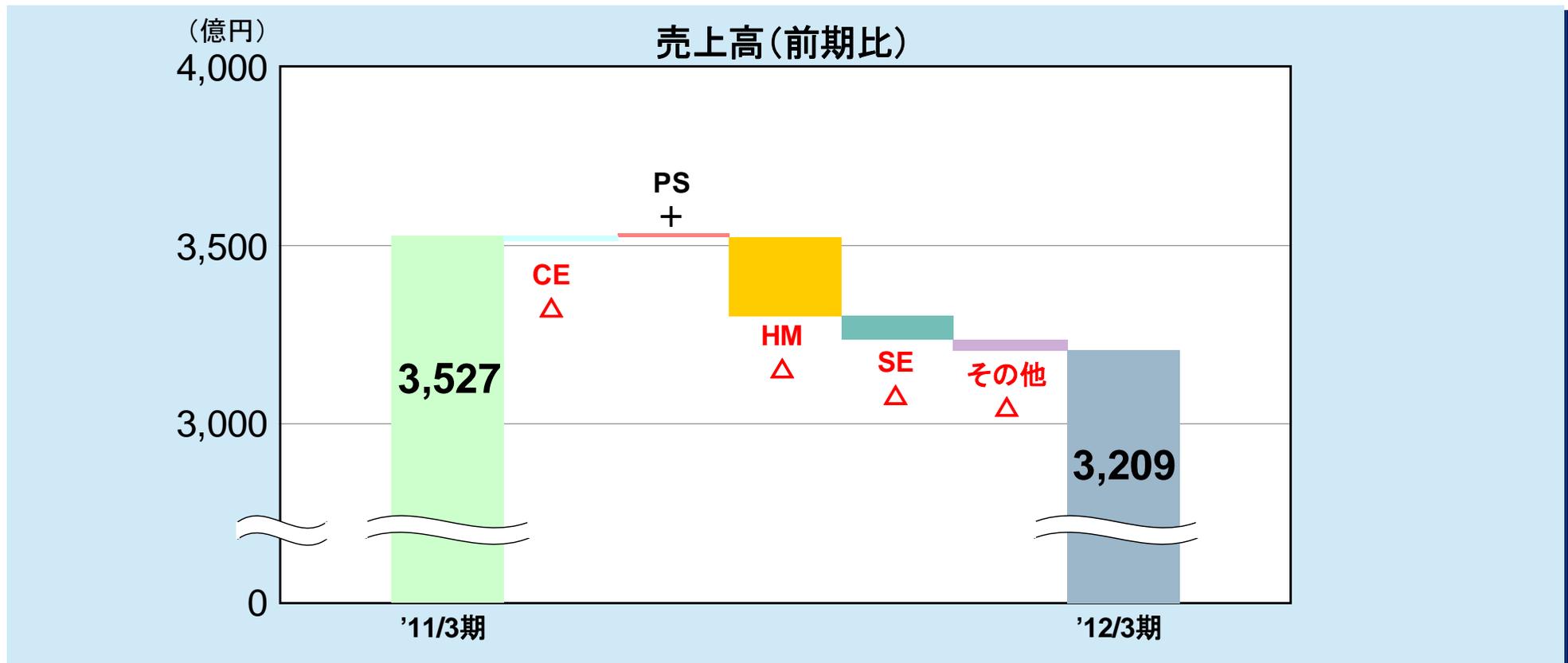


## 2012年3月期決算 連結売上高

**当期実績: 3,209億円 (前期比9.0%減収)**

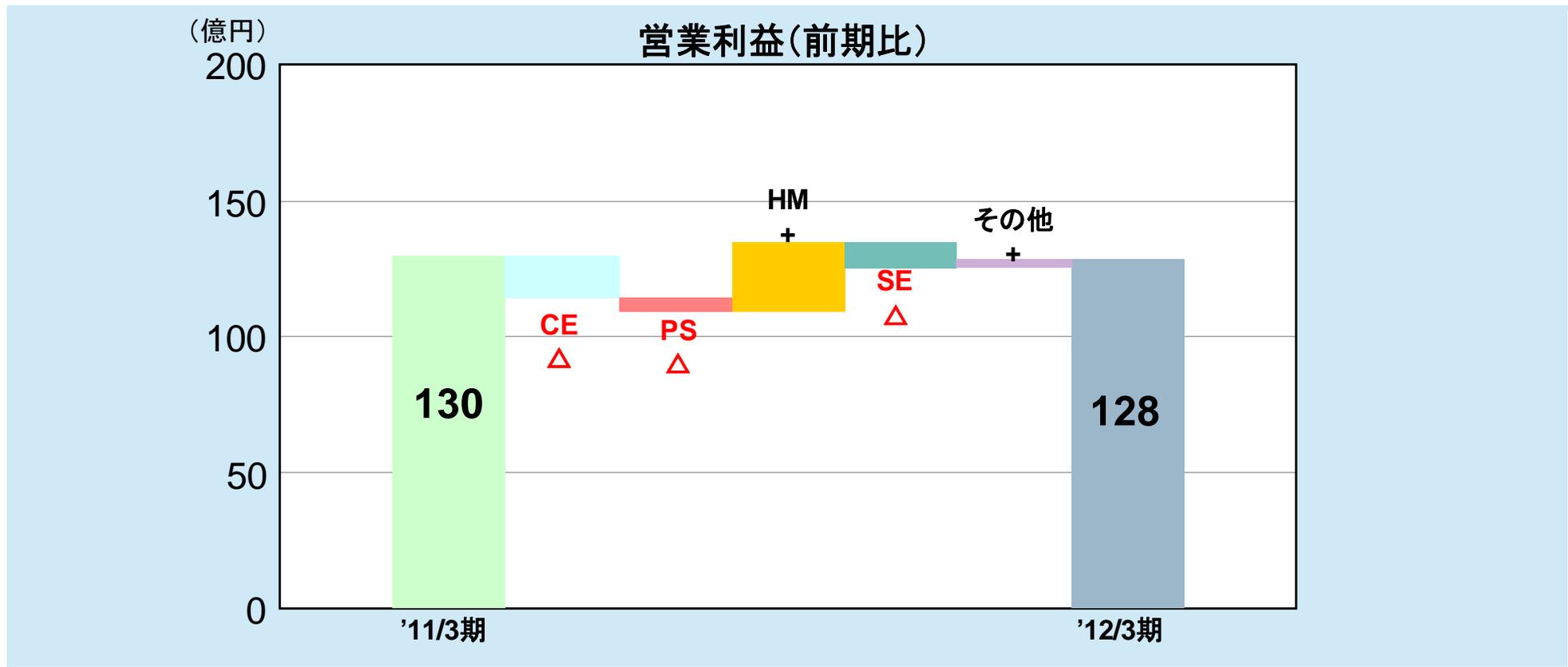
\* CE OEM／国内市販、COMは拡大したが、円高、震災、タイ洪水の影響から、事業全体ではCEは若干の減収、PSは若干の増収にとどまる

\* HMの一部絞り込み、SEの子会社譲渡の影響から、全社売上高は減収



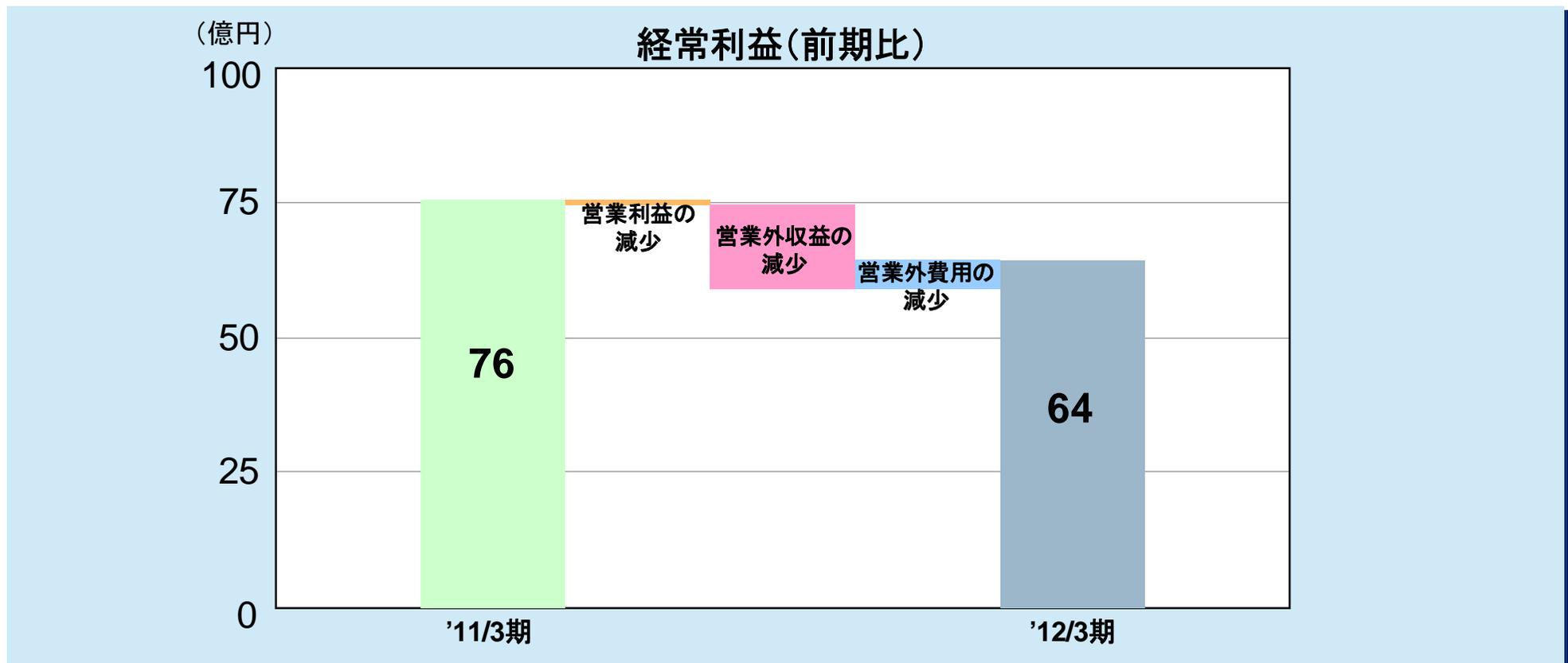
**当期実績:128億円 (前期比1.1%減益)**

- \* CE OEM／国内市販、COMの売上拡大効果が出現し、HMが前期に実施した構造改革効果から黒字転換
- \* 震災、タイ洪水の影響が大きな減益要因となったものの、全社営業利益は前期並み



## 当期実績:64億円 (前期比15.3%減益)

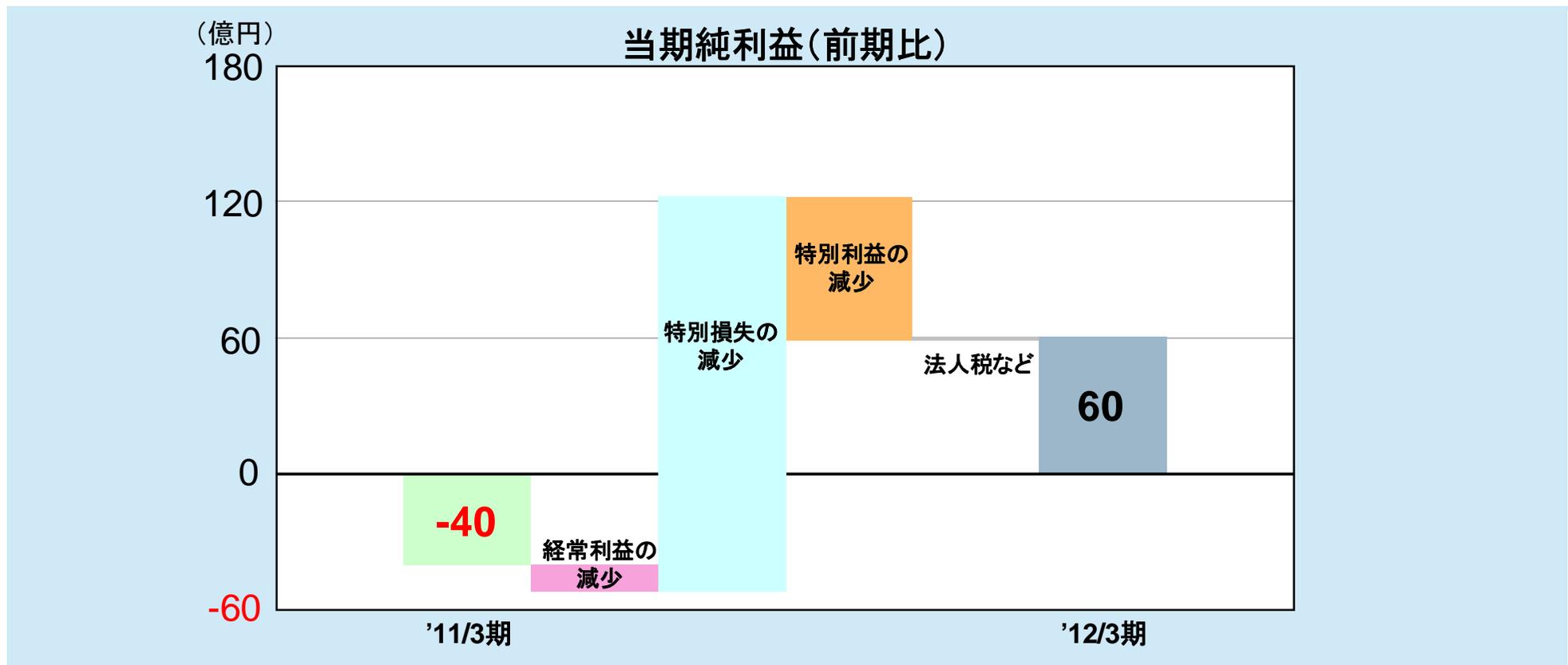
- \* 営業外収益は、前期計上した為替差益、特許料調整額の未発生などにより、前期比△15億円
- \* 営業外費用は、前期計上した製品保証引当金繰入額の未発生などにより、前期比△5億円



## 2012年3月期決算 連結当期純利益

**当期実績:60億円 (前期比101億円増)※グループ発足以降初の黒字化**

- \* 特別損失は、前期末で主な構造改革を完了し、雇用構造改革費用や固定資産売却損が大幅に減少したことなどにより、前期比△174億円
- \* 特別利益は、受取保険金が発生したものの、固定資産売却益の減少、前期計上の特許権使用許諾料の未発生などにより、前期比△64億円



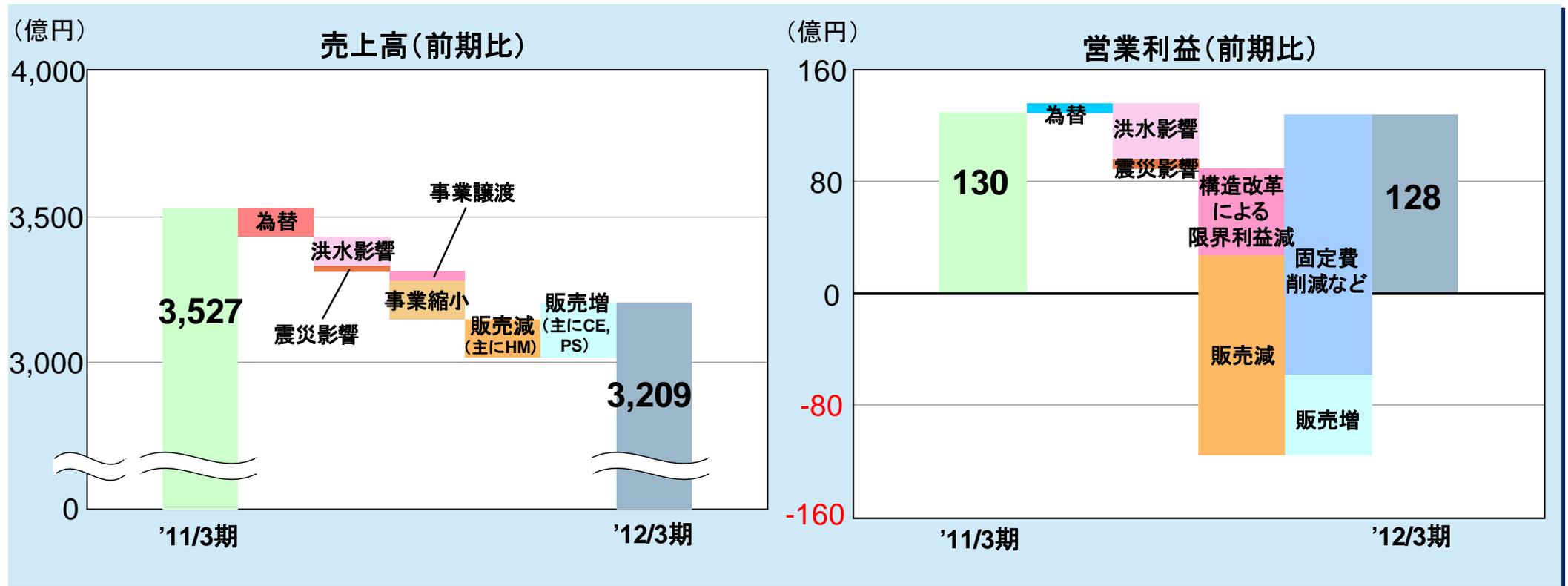
## 2012年3月期決算 増減分析(前期比)

## ＜売上高＞

\* 円高、震災、タイ洪水、構造改革(HMの一部絞り込みとSEの子会社譲渡)の影響により減収

## ＜営業利益＞

\* 震災、タイ洪水の影響を固定費削減などでカバーし、ほぼ前期並みの水準



# セグメント別情報

## セグメント別売上高および損益

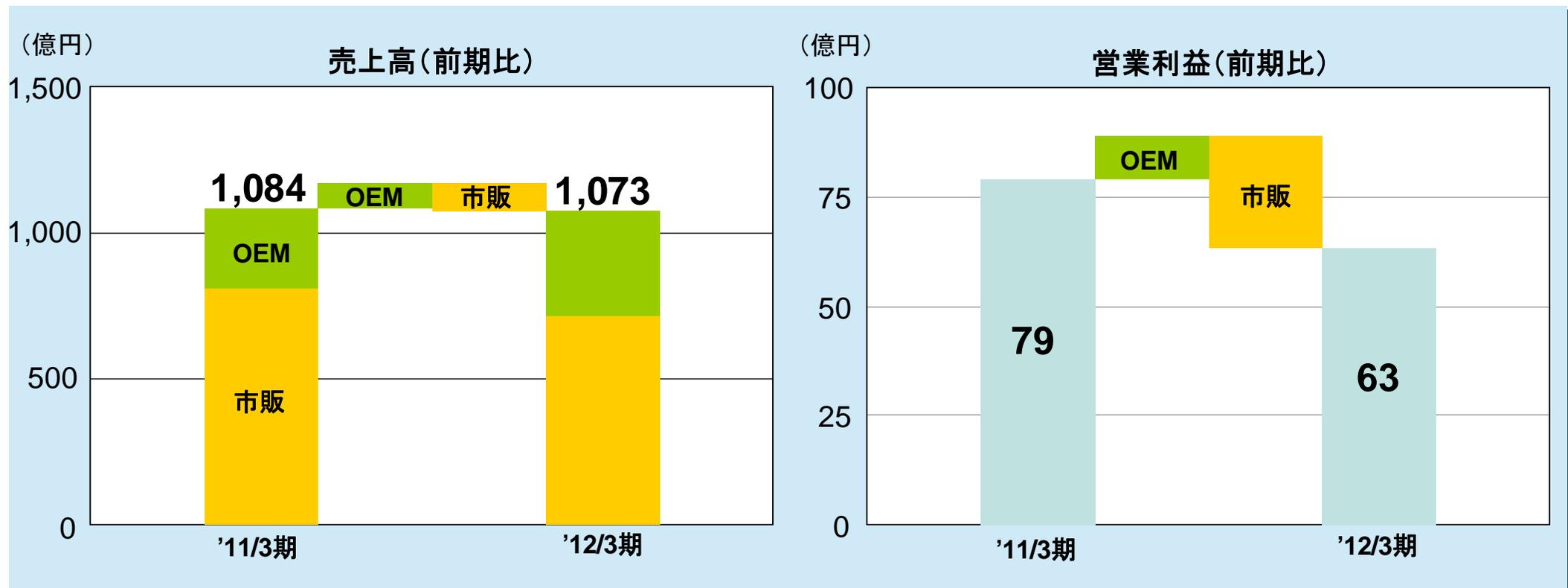
- \* CEは、OEM／国内市販は伸長も、円高、震災、タイ洪水の影響から減収減益
- \* PSは、BSの震災、タイ洪水の影響を好調なCOMが吸収するが減益
- \* HMIは、構造改革の影響で減収も、損益は改善し、通期営業黒字化
- \* SEは、子会社譲渡の影響で減収減益も、営業黒字を確保

(百万円)

セグメント		第3四半期累計			第4四半期			通期		
		'12/3期	'11/3期	前期比	'12/3期	'11/3期	前期比	'12/3期	'11/3期	前期比
カーエレクトロニクス (CE)	売上高	77,707	80,558	△2,851	29,574	27,891	+1,683	107,281	108,449	△1,168
	営業利益	4,360	6,024	△1,664	1,986	1,870	+116	6,346	7,894	△1,548
業務用システム (PS)	売上高	67,142	67,210	△68	26,385	25,335	+1,050	93,527	92,545	+982
	営業利益	1,630	1,847	△217	1,463	1,747	△284	3,093	3,594	△501
ホーム&モバイルエレクトロニクス (HM)	売上高	59,274	79,167	△19,893	18,271	20,934	△2,663	77,545	100,101	△22,556
	営業利益	1,433	△378	+1,811	297	△457	+754	1,730	△835	+2,565
エンタテインメント (SE)	売上高	28,139	33,742	△5,603	8,596	9,167	△571	36,735	42,909	△6,174
	営業利益	1,150	1,901	△751	62	276	△214	1,212	2,177	△965
その他	売上高	4,279	6,502	△2,223	1,499	2,164	△665	5,778	8,666	△2,888
	営業利益	216	20	+196	213	105	+108	429	125	+304
合計	売上高	236,542	267,182	△30,640	84,326	85,490	△1,164	320,868	352,672	△31,804
	営業利益	8,791	9,416	△625	4,022	3,540	+482	12,813	12,956	△143

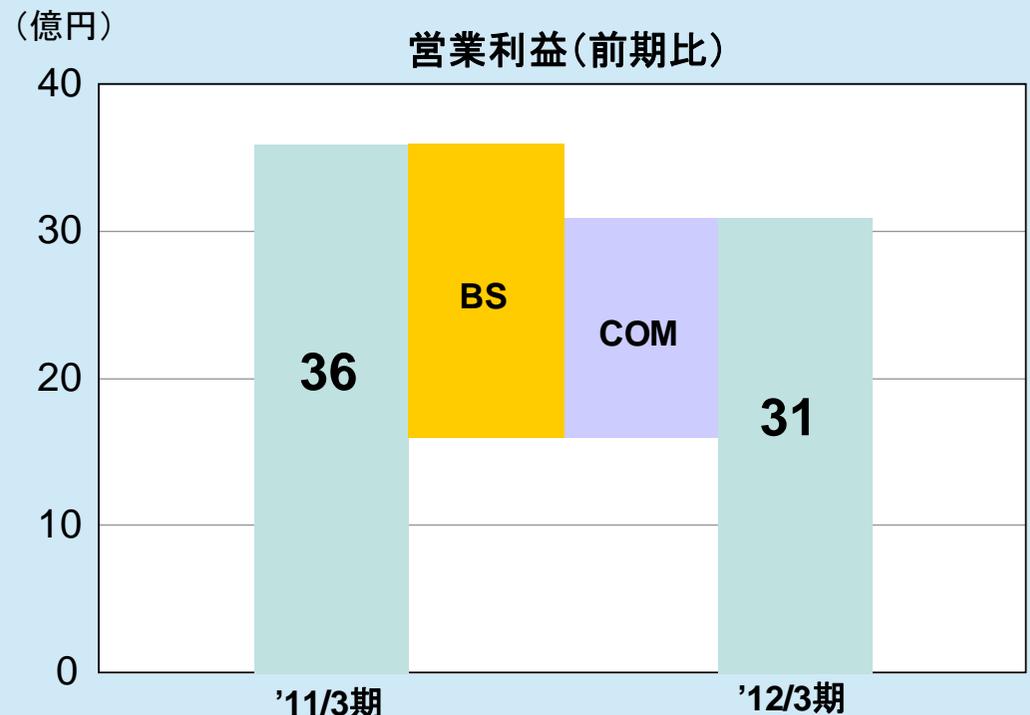
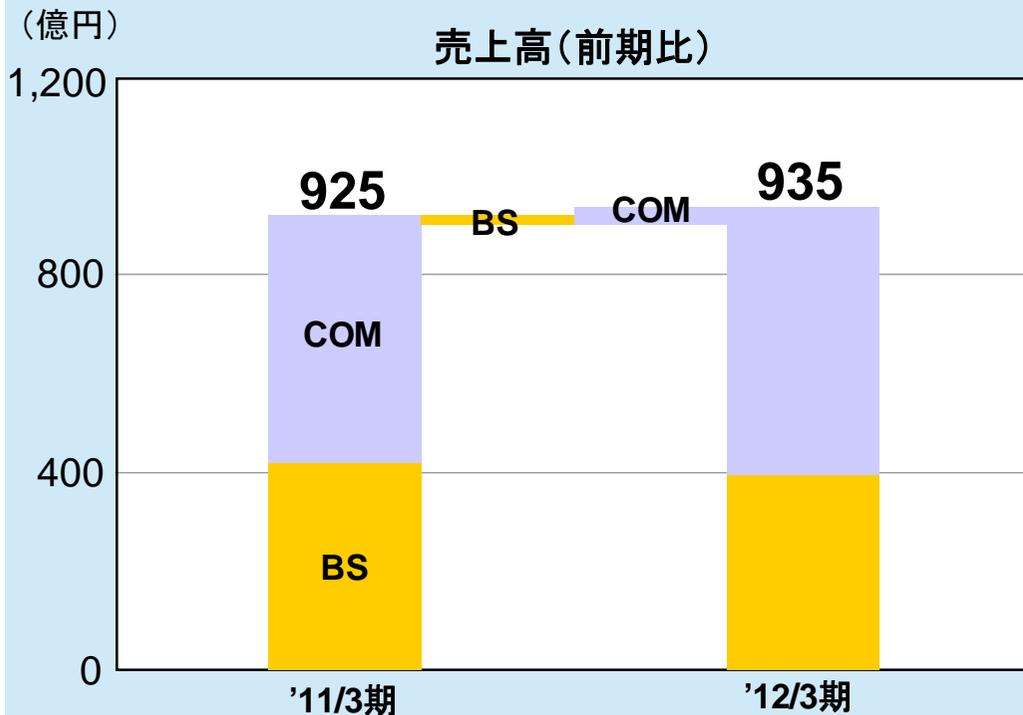
**売上高:1,073億円(△1.1%) 営業利益:63億円(△15億円)**

- \* **市販:** 欧米では、高シェアを持続したものの、円高、震災、タイ洪水の影響、欧州・中近東の市況低迷や一部商品の在庫調整により売上・利益減少。国内では、SSDタイプ「彩速ナビ」のヒットにより売上・利益が拡大し、シェアも大きく伸長。
- \* **OEM:** 震災、タイ洪水の影響を最小限にとどめ、2Q出荷開始のAV一体型ナビ（ディーラーオプション）、CD/DVDメカの受注が好調持続し、売上・利益拡大



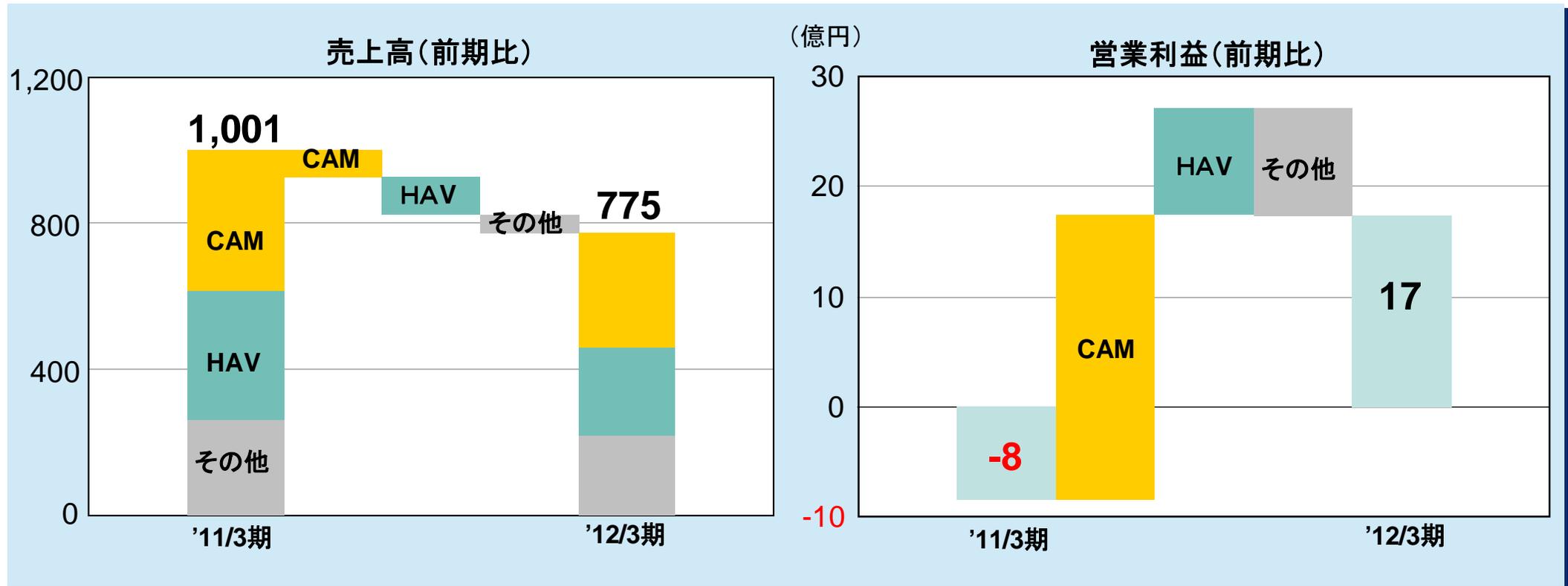
**売上高: 935億円 (+1.1%)**      **営業利益: 31億円 (△5億円)**

- \* **COM:** 独自開発デジタル無線機「NEXEDGE」や最大市場である北米での売上が過去最高となるなど年間を通じて好調を維持し、タイ洪水による販売面への影響も回避できたことから売上・利益拡大
- \* **BS:** 震災の影響による国内販売機会減少に加え、タイ洪水によりタイ工場の操業停止。代替生産開始するも、生産・出荷の遅れを取り戻すに至らず



**売上高:775億円(△22.5%) 営業利益:17億円(+26億円)**

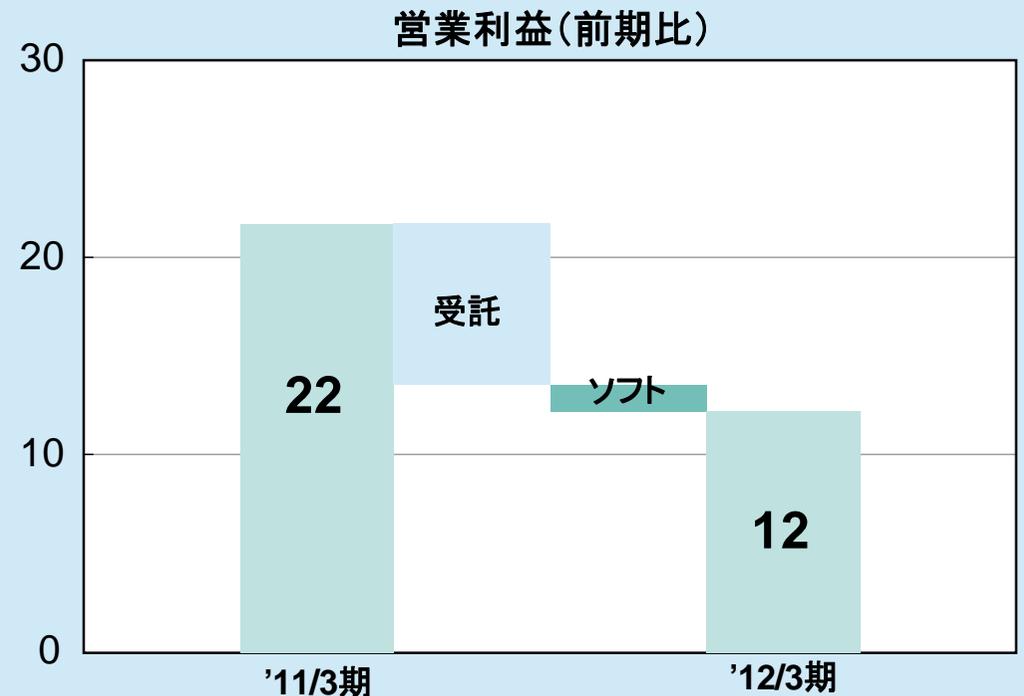
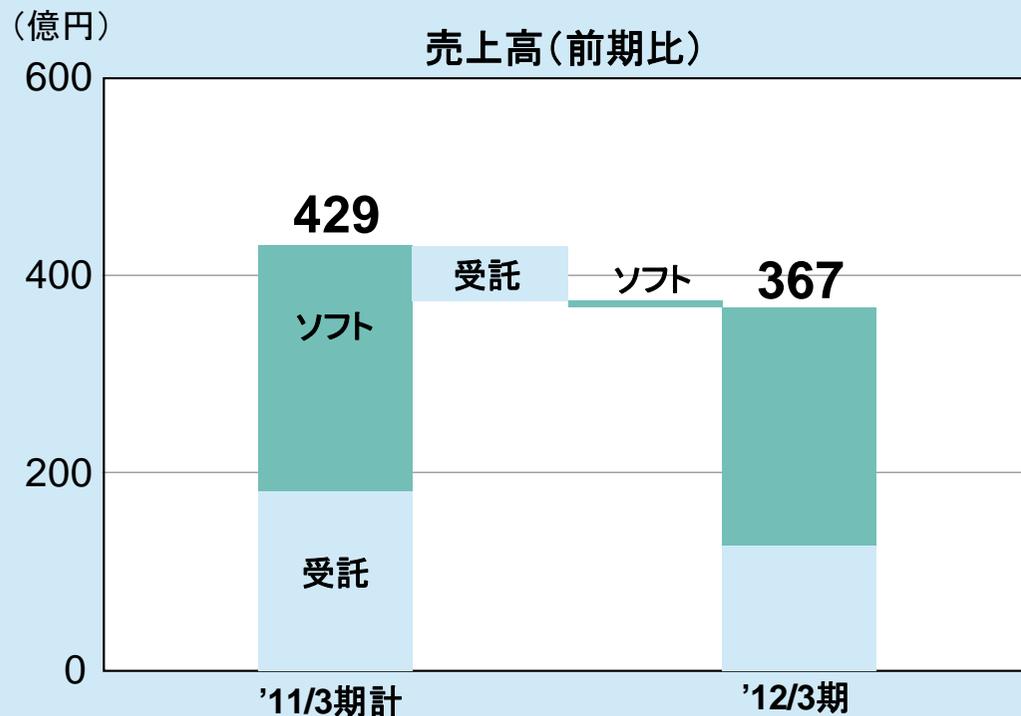
- \* **CAM**: 海外販売は減少も、国内販売の好調と前期実施の構造改革の効果により、損益は大きく改善し営業黒字化
- \* **HAV**: ディスプレイの自社開発・生産終息(昨年5月)とブランドライセンス収入(昨年7月~)、ホームオーディオの外部委託化(前期)により、損益悪化を最小化
- \* **その他**: AVアクセサリは高収益性を持続、プロジェクターは3D対応モデルの販売拡大で収益拡大



## 2012年3月期決算 エンタテインメント事業

**売上高:367億円(△14.4%)**      **営業利益:12億円(△10億円)**

- \* **ソフトビジネス**: 音楽関連のヒット作品輩出、アニメ関連の好調、音楽関連の権利収入などにより堅調に推移
- \* **受託ビジネス(光ディスク製造など)**: 物流受託子会社譲渡により売上高は減少、光ディスク生産受託は市場低迷が影響



## 2012年3月期決算 地域別売上高(参考)

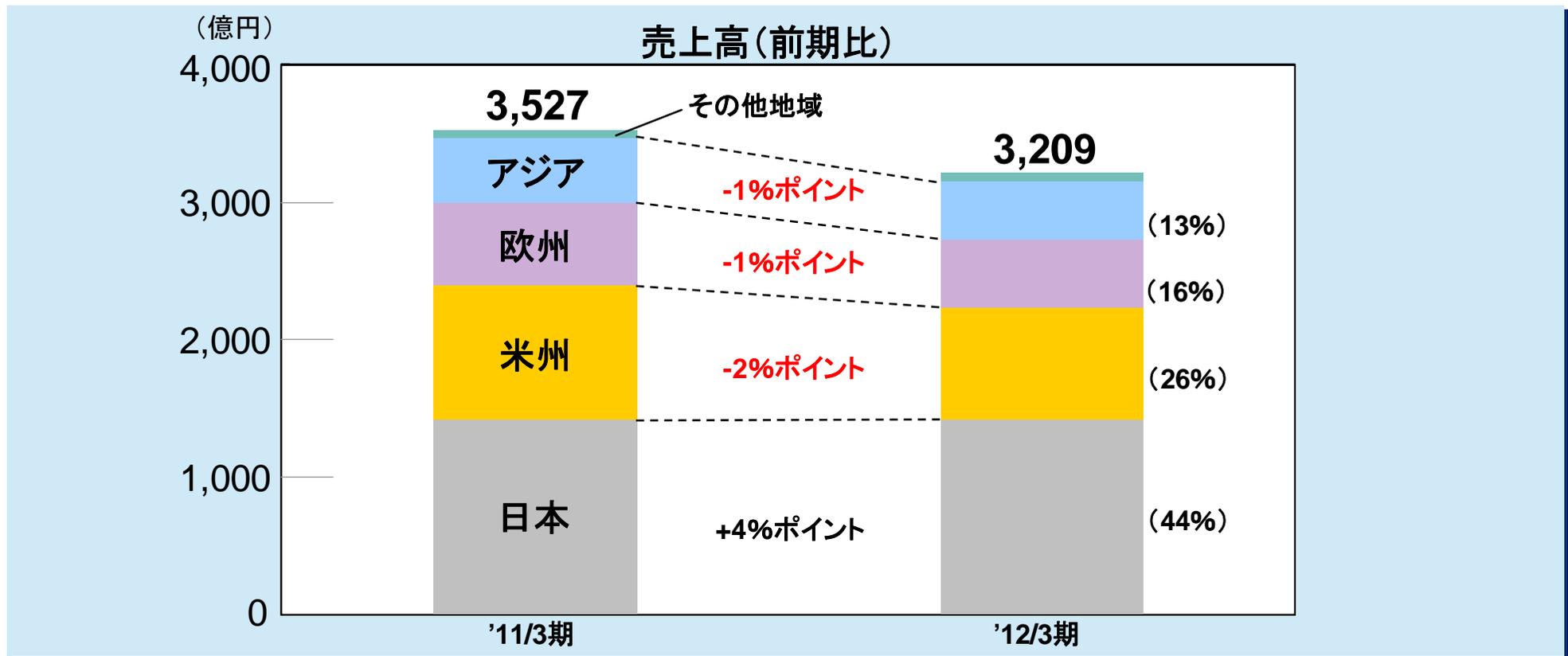
※ 円高にともなう海外売上高の減少が96億円の減収要因

【日本】CEの売上大幅増が震災、タイ洪水影響をカバーし、増収

【米州】COM好調も、円高とHMの構造改革の影響により、減収

【欧州】CEとHMの売上減により、減収

【アジア】CEとHMの売上減により、減収



# 2012年3月期決算 財政状態

## バランスシート

- \* 総資産は、遊休有形固定資産の売却、たな卸資産の圧縮、前払年金費用の大幅な減少などにより、前期末比189億円減
- \* 負債は、未払金や未払費用の減少などにより、前期末で232億円減
  - ・有利子負債は、借入金の返済や社債の一部期限前買入償還などにより、前期末比7億円減
  - ・本年3月に実施したリファイナンスにより、借入金に占める長期借入金の比率は前期末比で64.8%上昇
- ※ 昨年8月25日付で、日本ビクター発行の第7回無担保社債(120億円)の50%(60億円)を1年、残りの50%(60億円)を3年、それぞれ償還期限を延長→現在価値を見直し、BSに反映
- \* 利益剰余金は、当期純利益の計上、その他資本剰余金の振り替えなどにより、前期末比655億円増
- \* 純資産合計は、株主資本の増加により、前期末比43億円増  
自己資本比率は、前期末比で2.9%上昇し、22.9%

	'11/3期末	'12/3期末	(億円) 前期末増減
総資産	2,607	2,418	△189
有利子負債	931	924	△7
(うち長期借入金)	17	503	+486
ネットデット	281	268	△13
ネットD/Eレシオ(倍)	0.53	0.47	△0.06
資本剰余金	1,053	459	△595
利益剰余金	△413	242	+655
純資産	527	571	+43
自己資本比率(%)	20.0	22.9	+2.9

## キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー 89億円の増加(前期比で111億円収入減少)

\* 主要因は、前期に実施した雇用構造改革費用の支出や売上債権の増加

投資活動によるキャッシュ・フロー 65億円の減少(前期比で119億円収入減少)

\* 主要因は、有形固定資産の売却による収入の減少

財務活動によるキャッシュ・フロー 15億円の減少(前期比で8億円支出減少)

\* 主要因は、短期借入金純増減額の減少、前期計上した新株式発行、自己株式の処分による収入の未発生

当期末の現金及び現金同等物 655億円



## 2. 2013年3月期 通期業績予想と 今後の重点施策

- CEとCOMの成長、震災やタイ洪水の影響の減少などが増収・増益要因
- ドルに対する円安、特許料収入の減少、従業員の報酬一部返上の終了にともなうコスト増が減益要因
- 以上から、売上高は3,400億円、営業利益は140億円、経常利益は90億円、当期純利益は70億円を見込む
- 配当予想は、1株当たり10円(年間)

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	為替※
'13/3期	3,400	140	90	70	USD:約 80 円 ユーロ:約 110 円
'12/3期	3,209	128	64	60	USD:約 79 円 ユーロ:約 109 円
前期比	+191	+12	+36	+10	

※通期為替レートは、4月～3月のレートを平均した参考値です。

# 今後の重点施策

## ■ 成長施策の実行

- \* CE事業と無線機器事業

## ■ 新規事業領域の開拓

- \* 自動車関連ネットワーク事業と撮像・映像・音響事業

## ■ 経営効率の向上とスピードアップ

- \* 在庫・廃棄の圧縮、リードタイムの短縮、調達コストの低減、市場不良率の最小化を目指す

## ■ 環境保全・社会貢献活動

- \* 「低炭素社会実行計画」への参加
- \* ISO14001認証の統合と認証の対象拡大

## ①OEM分野の拡大

- シンワとの資本業務提携を活かしたCD/DVDメカの強化
- 協業を活かした純正商品、DOP(ディーラーオプション)商品の新規受注の獲得

## ②市販分野の拡大

- 国内での「彩速ナビ」のラインアップ拡充とシェア拡大による販売拡大
- 海外での「彩速ナビ」の展開とスマホ連携ナビの拡充による販売拡大

## ③新興市場向けの拡大

- 新興市場向け戦略モデルの販売拡大



DOPナビ

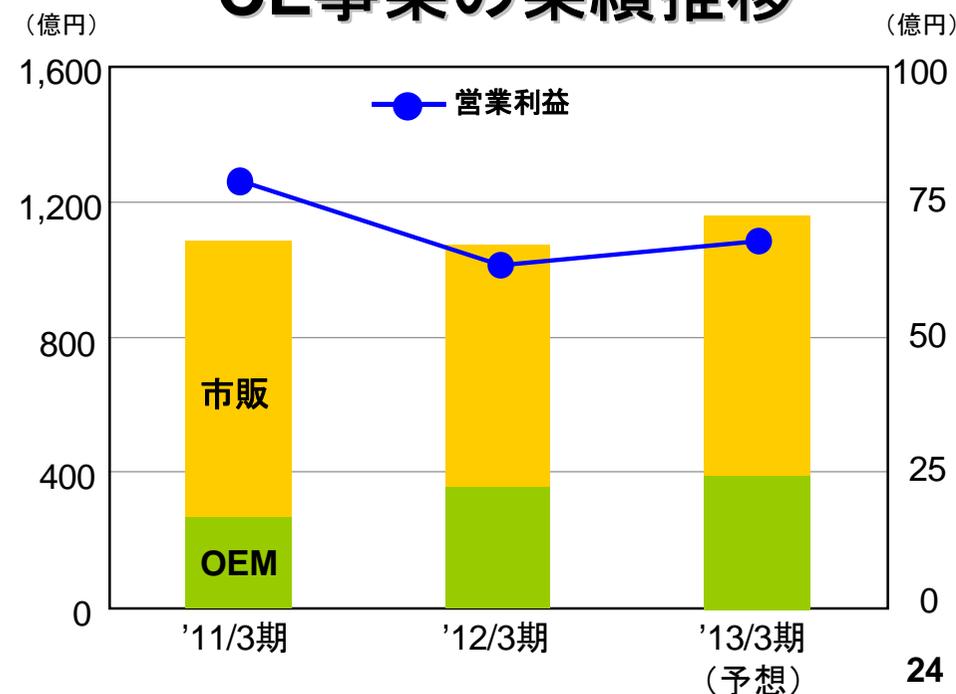


国内市販向け「彩速ナビ」



新興国向けモデル

## CE事業の業績推移

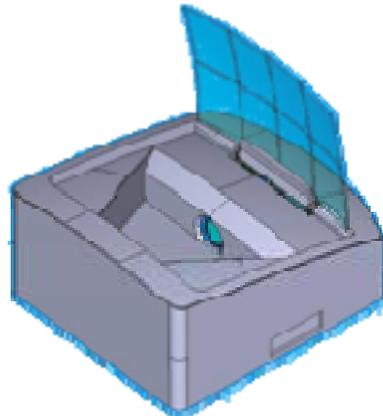
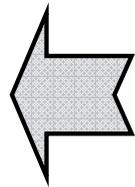


# 新規事業領域の開拓 自動車関連ネットワーク事業

■HM事業、無線機器事業、久里浜技術センターの持つ技術をCE事業に展開し、商品構成を自動車関連ネットワーク商品・サービスへ拡大

## ■ LCOS-ヘッドアップディスプレイ

Liquid Crystal On Silicon



### LCOS-ヘッドアップディスプレイの特徴

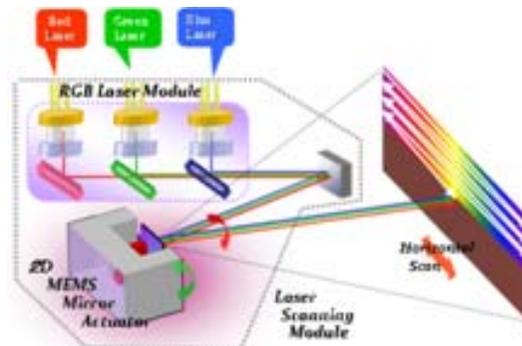
- ・リニアな階調性と色再現性
- ・白色LEDによる色安定性
- ・LCOSの特徴である高精細



プロジェクターの技術を活用し、車用にHUDを展開

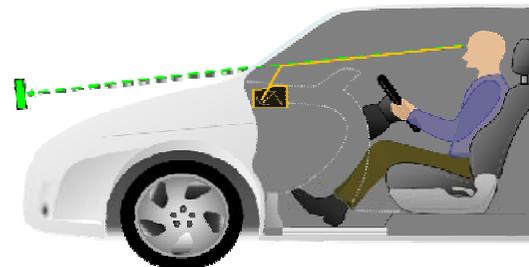
## ■ LSM-ヘッドアップディスプレイ

Laser Scanning Module



### LSM-ヘッドアップディスプレイの特徴

- ・低電力・低発熱・高コントラスト
- ・認識率の向上



# 成長施策の実行 無線機器事業

## ① デジタル業務用無線機器の拡大

- 北米での公共安全向け／民間企業向けデジタル業務用無線機器の販売拡大
- 中国・欧州向けデジタル業務用無線機器の開発・導入

## ② システムソリューションの拡大

- 「NEXEDGE」を活かした大規模ネットワークビジネスの強化
- 国内のシステムソリューション導入、海外での新プラットフォームの展開

## ③ 新興市場向けの拡大

- 地域密着型無線機の開発・導入



全世界



米州



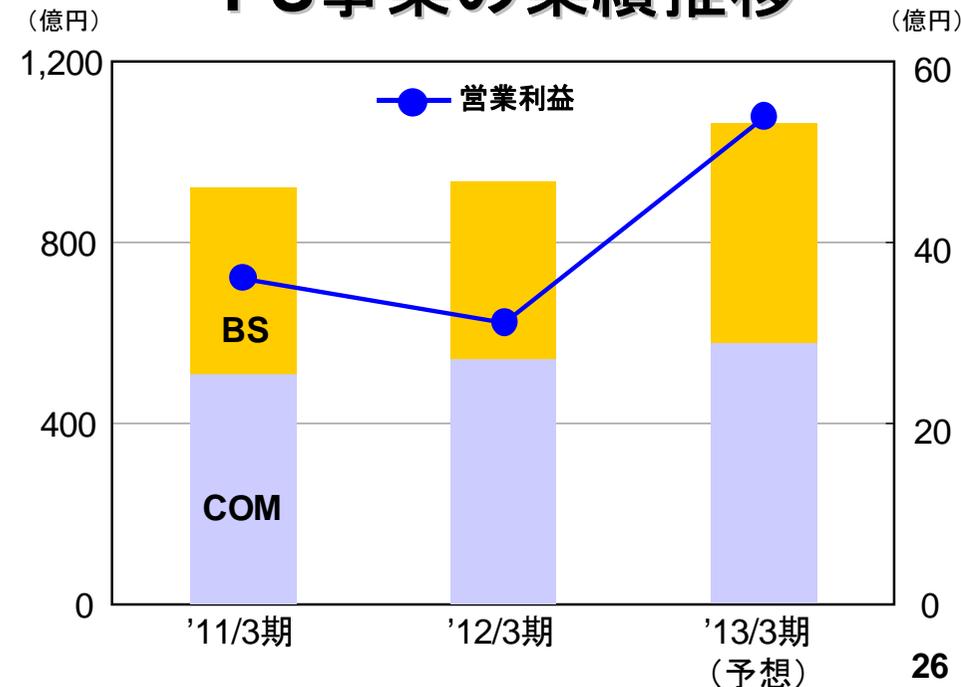
欧州



欧州・アジア



## PS事業の業績推移



## タイ洪水からの早期回復

- 昨年12月5日より横須賀事業所において本格的な代替生産を開始
- 本年1月28日より浸水をまぬがれたタイ工場2階部分で一部商品の生産を再開。3月中旬以降は、横須賀事業所からタイ工場へと生産を順次移管
- 5月中にはは業務用機器の生産を平常化できる見込み

タイ従業員緊急来日(横須賀工場)



タイ工場 2F新生産ライン



新規事業領域の開拓 撮像・映像・音響事業

- BS事業とHM事業の連携をこれまで以上に強化して、研究開発やキーデバイスなどの共通化をはかる
- SE事業の音楽・映像コンテンツやノウハウを活用、新機軸需要を創出



# JVC KENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。